まさのレポート
Masano Report 21
埼玉県議会議員 山本まさの

2017年 新春号
埼玉県議会 民進党・
無所属の会 越谷支部
〒343-0821
越谷市瓦曽根1-20-6 K1stビル3F
e-mail : masano.yamamoto@sea.plala.or.jp
http : //www.y-masano.jp/
お電話でのご連絡は、県議会控室へ
Tel : 048-833-1710（平日8:30〜17:15）

料金別納
郵便
郵便区内特別

寒中お見舞い申し上げます

昨年のオリンピックでは日本人選手の活躍に心が躍りましたが、中でも越谷市出身の水泳選手・星奈津美さんの2大会連続となる銅メダルに、元気をいただきました。

一方、熊本の大地震、糸魚川市の大規模火災等があり、多くの方がそれまでの生活を一瞬にして奪われた年でもありました。

福島原発事故からは今年3月で6年になりますが、今なお避難されているたくさんの方がいらっしゃいます。

そうした皆様に、心よりお見舞い申しあげます。

また国政を見てみますと、最近の政権は議論を充分せずにカジノ解禁法や年金抑制法などを数の力で成立させている状況で、とても残念に思っています。

県議会は、間もなく2月定例会が開催されます。わたしは予算特別委員会委員として、女性ならではの視点を活かし、生活者や労働者に寄り添う政策提案を行ってまいります。

そして、県政をもっと身近に感じていただけるよう、今年も多くの方々との対話や、情報発信を大切にしていく所存です。

皆様のご多幸・ご健勝をご祈念するとともに、本年も一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

埼玉県議会議員
山本まさの

今年も女性たちの活躍を応援します！

一昨年、「女性活躍推進法」が成立し、昨年４月から施行されています。

この法律は10年間の時限立法で、女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図ることを目的にしています。

国は事業主行動計画の策定に関する指針を策定し、国や地方公共団体、民間事業主は女性が活躍できるよう、さまざまな事項を実施することとなっています（従業員数300人以下の民間事業主については、努力義務）。

ところが、現実を見渡してみると、まだまだ女性の能力が活かされていないような状況も見受けられます。

たとえば私の生まれ故郷の愛媛県愛南町。この町議会には、女性議員が一人もいません。

何とも残念というほかはありません。しかしこの度、その町議会に私の友人がチャレンジすることとなりました。

わたしは女性議員の先輩として、女性議員0議会をなくすため、今年も応援していきます。

ラグビーワールドカップ2019 2020オリンピック・パラリンピック 開催に向け、県内のスポーツ施設を整備

埼玉県は世界に誇るスポーツ施設も多く、国内屈指のプロチームが構えており、世界的な記録を保持するアスリートも数多く輩出していることで注目されています。

また、東京に近いことや、交通の便がよいことでも、国際大会にはうってつけといえます。

2019年に開催される「ラグビーワールドカップ2019」の試合会場の一つとして、熊谷市の「熊谷ラグビー場」が選ばれました。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピックでも、開催会場のうちの4つが、埼玉県内の施設に決定しています。

これら二つの大会の成功に向け、会場となる各施設では急ピッチで整備が進められています。

それぞれの舞台では、涙あり感動ありのドラマの連続になるはずです。国内外から多くの来客者を迎え、埼玉のブランド力も高まることになるでしょう。

SAITAMA PRIDE

1 ラグビーワールドカップ2019

会場：熊谷ラグビー場（熊谷市）
開催日：2019年9月20日～11月2日

2019年ラグビーワールドカップ開催に向け、今年1月から改修工事にとりかかっています。2018年8月、新ラグビー場としてスタートする予定で、改修費用には約124億円が充てられています。
改修の内容は、現スタジアムのバックスタンドを新メインスタンドに、またスタジアムの対角に大型映像装置が設けられ、夜間照明も整備します。
ベンチ、立見席、芝生席の合計は、現状の9千席から2万4千席となり、すべて個席になります。2019年のワールドカップ時には、さらに6千席増やされ3万席になります。
また、新メインスタンド観客席の最前列からピッチまでの間は、14mから9mに短縮され、より間近でプレーを観戦できるよう配慮されます。
さらにスタジアム内には、レストラン、観戦個室、ミュージアムなども設けられ、ラグビーの殿堂が完成することとなります。

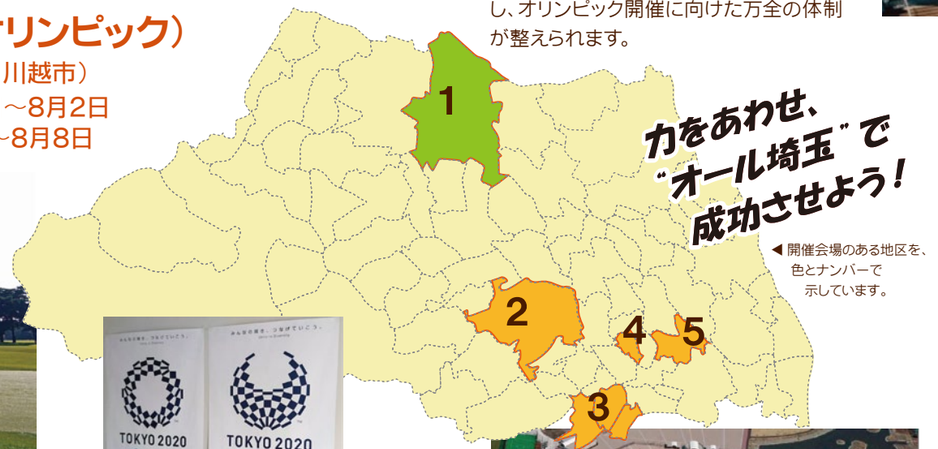
2 ゴルフ（東京2020オリンピック）

会場：霞ヶ関カンツリー倶楽部（川越市）
開催日：男子　2020年7月30日～8月2日
　　女子　2020年8月5日～8月8日

1929年（昭和4年）10月6日に開場された、80年以上の歴史を誇る有名名門コースです。埼玉県では第一号のゴルフ場でもあります。
2013年、日本オリンピック委員会加盟団体である日本ゴルフ協会の調査・選考の結果、2020年の東京オリンピックでゴルフ競技の会場となることが決定しました。

東京オリンピック開催年による比較

	1964年	2020年
参加国と地域	94	200 以上の予定
開催競技（種目数）	20	28（追加5種目）



◀開催会場のある地区を、色とナンバーで示しています。

3 射撃（東京2020オリンピック・パラリンピック）

会場：陸上自衛隊朝霞訓練場（朝霞市、和光市、新座市、練馬区）
開催日：オリンピック2020年7月25日～8月2日
　　パラリンピック2020年8月26日～9月2日

陸上自衛隊朝霞駐屯地に隣接するこの訓練場では、1964年東京オリンピックでもライフル射撃競技が行われました。
現在も射撃の競技場・練習場として使用されている施設です。
大会時には、オリンピックの高い基準に適合した仮設施設が整備されます。

4 バスケットボール（東京2020オリンピック）

会場：さいたまスーパーアリーナ（さいたま市中央区）
開催日：2020年7月25日～8月9日

スポーツ大会、コンサートなど、様々なイベントが開催される国内最大級の多目的ホールです。埼玉県が誇る施設で、2000年に開業しました。
「さいたまスーパーアリーナ」と「けやきひろば」の施設の老朽化に対応して、さらに魅力を高めるため、大規模改修を実施しています。
さいたま新都心の一層のにぎわいを創出し、オリンピック開催に向けた万全の体制が整えられます。

●さいたまスーパーアリーナ
外壁・火災報知設備・自動制御設備・音響設備の改修。
コミュニティアリーナの大型映像装置の更新。

●けやきひろば
トイレのリニューアル（個室の増設：男性6→9、女性14→25、授乳室・子供用トイレ・おむつ替えコーナーの新設）。
火災報知設備・自動制御設備・防水の改修。起伏や段差の解消。

5 サッカー（東京2020オリンピック）

会場：埼玉スタジアム2〇〇2（さいたま市緑区）
開催日：2020年7月22日～8月8日

サッカー会場の一つとなる埼玉スタジアム2〇〇2は、日本最大のサッカー専用スタジアムで、2002年FIFAワールドカップの試合会場として使用されました。Jリーグ「浦和レッドダイアモンズ」の本拠地としても知られ、「埼スタ」の通称で親しまれています。
周辺一帯はサブグラウンド3面、フットサルコート2面を備えた「埼玉スタジアム 2〇〇2公園」として整備され、「サッカー王国埼玉」を象徴するゾーンとなっています。
東京2020オリンピック開催に向け、施設の魅力を高め、最高の状態で大会運営ができるよう大規模な改修や新たな施設整備が行われます。

●大規模改修 約12億5374万円
監視カメラの設備更新、外壁の塗装、空調設備の修繕。

●新たな施設整備 2億7300万円
南広場常設テントおよび南ゲート日よけの設置。
ICT（情報通信技術）インフラ整備（Wi-Fiなど）検討の業務委託。

視察報告

まちづくりや環境対策などについて視察

昨年8月、下記の2つの委員会の視察に参加しました。
それぞれ4か所を視察しましたが、その中でも印象的だったものについて、ご報告します。

県土都市整備委員会

（1）道後温泉本館周辺地区（松山市）
（2）一般国道196号　今治道路（今治市）
（3）尾道市役所［政策企画課、まちづくり推進課］（尾道市）
（4）広島市大州雨水貯留池（広島市）

広島市大州雨水貯留池

広島市は、都市機能が集中するJR広島駅周辺地区の浸水被害を防ぎ、雨水を資源として活用するため、広島市民球場の新球場建設に併せて、その地下約2.5mのところに大容量の雨水貯留池を建設しています。

雨水の総貯留量は1万5,000㎥(25mプール約40杯分)で、このうち1,000㎥を、消毒等を行った上で球場の天然芝への散水やトイレ用水、周辺のせせらぎ用水に再利用しています。

この取り組みの説明プレートを球場内のトイレなどに貼り、市民に分かりやすく伝えていました。一般の見学者も受け付けていて、平成21年度から27年度までで、127団体、2,573名が見学に訪れたそうです。

球場で利用されない貯留池に溜まった水は、晴天時に最寄りのポンプ場経由で県の東部浄化センターへ送水し、きれいにして河川へ放流されます。

浸水防止だけでなく、環境に優しい球場づくりにも貢献している貯留池の視察は、下水道を整備・管理している埼玉県にとって、とても参考になるものでした。

球場地下にある雨水貯留池の内部

自然再生・循環型社会対策特別委員会

（1）おおき循環センターくるるん（福岡県大木町）
（2）福岡市中部水処理センター（福岡市）
（3）北九州市響灘ビオトープ（北九州市）
（4）（公財）北九州産業学術推進機構（北九州市）

おおき循環センターくるるん

大木町では平成18年11月、循環のまちづくりの拠点として町の中心部に生ごみ・し尿などをリサイクルする「おおき循環センター・くるるん」を建設。町を挙げて「持続可能な循環のまちづくり」を進めています。

焼却処分に頼らず25種類もの分別収集を実行し、生ごみだけを町内でリサイクル再生、下水道ではなく合併浄化槽の整備を進め、汲み取り回収した汚泥を町内のリサイクル施設で処分するというシステムを構築しました。

このような施設は「迷惑施設」とも呼ばれ、設置場所などに苦労することも少なくありませんが、同町は同施設を「環境・農業・食をつなぐ、まちづくりの拠点」と位置づけ、国道バイパス沿いの町中心部に設置。そこにJAの農産物直売所やレストランを併設し、町民の地域循環システムへの理解や協力を高め、地域の一体感を醸成することに成功しています。

メタン発酵時に発生する消化液も、液肥として無料で町民や町内農家に配布し、収穫された農産物は隣接する直売所やレストラン、学校給食で利用され、さらに、菜の花プロジェクトとして、休耕田を利用した菜の花の育成から、食用油の製造、廃食油のバイオディーゼル燃料(BDF)化も行っています。

今回ここを視察・調査できたことは、今後の資源循環社会の構築に関する取り組みを推進していくために大変参考となりました。